・人形芝居めい遊「ようこそ　まっていたよ」

お客さんの入場時から退場まで、多幸感に溢れ素敵な劇場空間でした。正直、この演目はもっと多くの方にご覧いただきたいと思っております。大いに創造性にあふれあたたかみがあり、創意工夫され、それを感じることができ、誰かにオススメしたくなるようなものでした。ぜひ、いろんな機会で上演していただければと思っております。こういった作品は、とにかくカラフルな小道具があればあるだけ嬉しいです。一瞬しか登場しない小道具からもこだわりを感じ、この人形芝居のために費やして来られた膨大な時間を味わえて、それもまた贅沢でした。その中でも、帽子が上に飛ぶのがよかったですね。空に地上がくっつくのも面白かったです。また、音楽に関しても芝居にリンクしていてそれが特によかったように思います。
あえて気になったことを書くとすると、恋の不器用さ、不自然さをどこまで、回避するかが難しいところでした。例えば、冒頭で「いいお天気ですね」と女の子がいいますが、突然にとっぴょうしもなく発せられるので、動機が気になります。しかし、これも恋の不器用さ不自然さといえば説明がつきます。その後、男は、家に女を誘いますが、それも急に誘ったように感じました。それに対して女はすぐにうなづいて、そこに葛藤はなかったのか？と気になりましたが、それも、恋だということで、片付いてしまいます。ここの不自然さにも、もう少し葛藤や、恋が見え隠れするとよくなるのではないか？と思いました。しかしながら、ラストの「子供が幸せな形としてうまれてくる」というように感じられ、それは普遍的で、優しく誰にでも共感できるテーマでそこに血が通っていたように感じました。「おしまい」と看板で終わるのも拍手がしやすく、「拍手のしやすさ」というのは実はこういった演目の重要な要素だとも思いました。高さにも工夫が行き届き、観客席のほうへ入り込んで来るタイミングも効果的でしたし、魅せ方に丁寧さが感じられ、暖かいひとときでした。とくに木がいい役割をしていて、季節をあらわし、壮大な時間を感じることができました。音楽で木の色づきが変わっていくだけで、人間はドラマを感じることができます。説明的にならずシンプルであればあるほど、こういったことが効果的だったように思います。目にも楽しく物語も楽しく非常によかったです。

村上慎太郎